



知っておきたい 近視進行抑制治療

近視の子供の増加と重症化は世界的な問題です。近視が強いほど黄斑変性、網膜剥離、緑内障などさまざまな合併症のリスクが高くなると言われており 早めの予防が肝心です。当院での近視進行抑制治療をご紹介します。以下に有効性・安全性が示されている代表的な治療について記載しております。詳細は当院スタッフまでお尋ねください。

● 低濃度アトロピン点眼薬 (保険適用外)

世界的に最も広く行われている治療です。もともと、通常濃度(1%)のアトロピン点眼は小児の斜視や弱視の診断に長く使われてきました。低濃度アトロピン点眼(0.01%~0.05%)は濃度が低いため、瞳が広がる作用で生じる、眩しさや手元の見えにくさといった副作用がほとんどありません。1日、夜寝る前に1回点眼するだけで効果が得られます。



● オルソケラトロジー (保険適用外)

オルソケラトロジーは、専用のコンタクトレンズを睡眠時に装用して一時的に角膜形状を平らにし、焦点をずらすことで「眼鏡やコンタクトレンズのいらない」良好な裸眼視力を得ようとする屈折矯正法です。レンズを外しても一定時間はその形状が続くので、日中は裸眼で過ごせます。夜間に大人の管理のもと装用できるので、低学年のお子さんにも治療を行えます。また低濃度アトロピン点眼薬との併用も効果的です。



● 多焦点ソフトコンタクトレンズ

多焦点ソフトコンタクトレンズは、一般的に老視矯正のための遠近両用コンタクトレンズ(1日使い捨てコンタクトレンズ)として知られています。唯一アメリカFDAの承認を得ているのが、マイサイト・ワンデイ【MiSight®1day】(クーパービジョン社)で、海外では広く用いられています。日本では国内臨床試験が2014年に終了し、近視進行抑制治療として厚生労働省に、今年承認される予定です。

● 近視管理用眼鏡

周辺部の網膜に、網膜の手前でピントがあう光をたくさん作用させ、周辺部の網膜のコントラストを下げることで、近視進行を抑制しようとする眼鏡です。海外では2018年頃より販売されておりますが、日本では未販売です。

4 月 17 日(木)東京国際フォーラムにて「新たなコンセプト多焦点眼内レンズのペアリング」HOYA ランチョンセミナーが行われました。座長/佐々木洋教授(金沢医科大学)〔写真右端〕のもと、当院、西 悠太郎(副院長・学術研究統括部長)〔写真左より 2 番目〕は、演題「**自院での Gemetric の短期臨床成績とペアリングの海外評価**」を発表しました。多焦点眼内レンズの新しいコンセプトについて、各施設(海外、当院、慶応大学、和歌山県立医大)の臨床成績を基に議論を交わしました。

その後、悠太郎先生は「日本アルコンのアドバイザーボードミーティング」にも参加、白内障手術や多焦点眼内レンズについて議論し、最新の知見を得ました。



第 40 回 日本白内障屈折矯正手術学会(JSCRS) 2025 年 6 月 20-22 日

6 月には第 40 回 JSCRS 学術総会に参加、多焦点眼内レンズにおける脳アダプテーションの重要性について(下記演題)の講演を行いました。



回析型三焦点眼内レンズ挿入眼の年齢別視機能の安定性と適応経過の検討

○西悠太郎、西浩之、佐方弘哲、境友起夫、中江玲子、福田宏美、西佳代、西起史 (西眼科病院)

多焦点眼内レンズ 無料説明会

毎月第 1 木曜日

西眼科病院 1F にて

16:00 開始 (30 分間)

多焦点眼内レンズ (フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術)

予約不要

保険外診療(保険適用外)



開催予定日：7 月 3 日(木) 8 月 7 日(木) 9 月 4 日(木) 10 月 2 日(木)

ご興味のある方はこの機会に是非、ご家族やお友達とご参加ください

特殊・専門外来

- 白内障/屈折矯正外来(フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術・多焦点眼内レンズ・ICL(眼内コンタクトレンズ)・オルソケラトロジー・マイオピン点眼)
- 角膜外来(角膜疾患全般・角膜移植(PKP/DSAEK/DMEK/DALK)・羊膜移植・円錐角膜・角膜クロスリンク・エキシマレーザーPTK)
- ぶどう膜炎外来 ● 網膜硝子体外来(メディカルレチナ・サージカルレチナ)
- 緑内障外来 ● 涙道外来(チュービング・DCR)
- 眼瞼・眼形成外来(内反症・眼瞼下垂・翼状片)
- ドライアイ外来 ● ロービジョン外来 ● 斜弱眼筋麻痺外来 ● 小児眼科外来(斜視・弱視等)

当院では、基本理念のもと、スタッフ全員で症例の共有を行い患者さんにとっての最適解を選択しております

